

□10月16日礼拝説教(小畑太作牧師)短縮版

「苦難をとおる」(ヨハネの黙示録7:9～17)

ヨハネ黙示録は世界の終末を描いています。それは未だ実現しない、しかし到来が約束されている未来です。書かれたのは迫害の中、帝国への戦争協力を拒んだ信仰者たちが殺されていく中で、しかし救いの終末を信じて、真っ直ぐに生きるように呼びかけています。

「小羊の血で洗って白くした」その衣は、返り血を浴びた軍服の対照です。人殺しを拒み、自分の血を流したそれらの人々の苦難は決して無駄ではないと。

時代は降り、神に導かれ人類は、こんな暴虐が起こらないようにと仕組みを見出してきました。今の到達点は立憲民主主義です。その背後には福音の力があり、同時にそこには、血を流した小羊と幾多の苦難をとおった人々の血が流れています。

発端に抗い、終末を見失わないで歩みましょう。

(終)